

米欧亜回覧

第78号
発行

特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

編集委員会

四月二十六日 総会例会は、学術センターで 二十周年行事について知恵を出し合う会

すでに承知の通り、来年二〇一六年は当会設立二十周年にあたるため、記念事業をおこなうべく幹事会や委員会を中心に各種の企画が立てられている。したがって今回の総会は定例の決算予算、活動報告など年次総会の議事を行うが、後半は例年のように著名講師を招いての講演会ではなく、記念事業の企画案に関して担当者からの説明と会員間の討議に集中し、大いに知恵を出し合う会にしたい意向である。

現在進行中の企画は大きく二つに分けられる。

第一は「岩倉使節団の意義と日本近代百五十年の成功と失敗」(仮題)をテーマとするセミナー&シンポジウムの企画であり、セミナーについては準備段階の勉強会も含め本年の五月よりスタートさせる案も浮上している。そして二〇一六年には公開セミナーを始めその集大成として九月には三日間にわたってグラランドシン

ポジウムを開催しようとするものである。

第二は、「岩倉使節ミュージアム」構想である。むろんヴァーチャル上のミュージアムだが、すでにその方向で資料集めや執筆が始められており、これからコンテンツの作成、蒐集に力をいれ、ある段階からその整理、編集作業にとりかかかり、同時に展示、表現方法の検討実施に入るという構想である。そして九月までに開館を目指すことになるだろう。

以上、本プロジェクトは会員の総意に基づき、総力を挙げての実現を目指しており、会員の皆さんは万障繰り合わせの上ご出席願いたい。

二〇一五年新年会開催！ 華やかで盛大なサロン・コンサート

本年の新年会(全体例会)は、一月十日(土)、昨年を引き続き有楽町の外国特派員協会に九十余人が参集して、十二時三十分から開催された。



2015新年会・泉三郎代表による開宴挨拶

第一部は、多田、吉原の両幹事制作の映像が、泉代表の解説付きで披露された。一つは、大和絵画家・田中有美氏の「岩倉具視一代絵巻」(明治二十三年)をもとにした動画、もう一つは、「DVD岩倉使節団の米欧回覧ダイジェスト版」であり、今後の活用が期待されるできばえとなっている。

第二部は、まず、岩倉使節団と所縁のあるヨハン・シュトラウス二世の作曲した喜歌劇「こもり」の三重唱を招いた専門家が演じ、続いて、会員他の有志によって編成された「Chorus」が加わり、「乾杯の歌」、「我ら皆兄弟姉妹」を歌い、会場と一体となって盛り上がった。さらに、ソプラノ、ヴァイオリン、チェロのガラ・コンサートが続く、参加者全員で楽しく華やかな新年を祝った。

(詳細は二頁)

福沢諭吉に「心訓」という七箇条からなる教えがある。世の中で一番楽しく立派なことを、一生を貫く仕事をもつことです。

世の中で一番みじめなことは、人間として教養のないことです。

世の中で一番さびしいことは、する仕事がないことです。

世の中で一番みにくいことは、他人の生活をうらやむことです。

世の中で一番尊いことは、人のために奉仕し決して恩にきせないことです。

世の中で一番美しいことは、全てのものに愛情をもつことです。

世の中で一番悲しいことは、うそをつくことです。

さすが福沢先生である、的を射て簡潔で心にひびく。

ところが、先生の晩年(脳溢血で倒れたあと)、慶應義塾では高弟らが七人ばかり集まって先生の言葉を「修身要領」と名付けて編纂した。「先生の閲覧を経て」とはあるが、なんと二十九箇条もあり表現も冗長でばやけてしまった。

近日、それとは対照的に

世の中で一番大事なこと

泉三郎

短い、偉大なるおふくろさうの子供たちにさせた「五つの約束」を知った。一 うそをつくな。約束は必ず守れ。二 ブルイこと、卑怯未練なことはするな。負けてもいいから正々堂々と戦え。三 人生の価値は立身出世・成功・栄華ではなく、どれくらい人さまに奉仕し、何人かを幸せにしたかだ。貧乏は恥ではない。

四 無愛想、不機嫌な顔を人に見せてはいけない。不機嫌は人間の悪徳の最たるもの。

五 他人様のお世話になつたら、かならずお礼をいうこと、すること。

高橋宏氏(本会会員)の新著「喧嘩の作法」(講談社)から引用させていた。

いたものである。越後新発田の旅館の娘であったというご母堂は、これを息子に刷り込んで、アメリカ政府と四つに組んで「堂々と喧嘩した」偉丈夫、豪気で温情溢れる快男児を育てたのだ。

世の中で一番大事なことは十指にも満たない平易な言葉の中にある、と改めて思うのである。

第74回 全体例会

二〇一五新年会、盛大にそして華やかに開催
ヨハン・シュトラウス二世作曲の喜歌劇「こうもり」、
会員参加の合唱とガラ・コンサート



「こうもり」三重唱 (左から)
横山和美さん、横山和彦さん、森美智子さん

一月の全体例会として、恒例の新年会が一月十日(土)有楽町の日本外国特派員協会で開催された。近藤義彦事務局長の総合司会により、サロン・コンサートを中心に盛りだくさんの内容で、九十余名が新年を祝った。



i-Chorus による「乾杯の歌」

宮殿で皇帝・皇后に謁見した際の音楽会のプログラムを持参され、初めての公開になるとスピーチされた。

第一部は、泉三郎代表の挨拶と映像の解説。上映された映像は二編あり、先ず、大和絵画家・田中有美氏の「岩倉具視一代絵巻」(明治二十三年)をもとに多田直彦幹事が制作した動画。そして、吉原重和幹事が制作した「DVD 岩倉使節団の米欧回覧ダイジェスト版」となった。

第二部に移り、岩崎洋三、植木園子の両幹事が中心となった企画・プロデュースによるサロン・コンサートが開演した。



第1部 泉代表の映像解説

岩倉使節団がボストンで聴衆となった音楽会「太平洋楽会」の指揮者の一人、ヨハン・シュトラウス二世の作曲した喜歌劇「こうもり」の三重唱、夜会の場面のソプラノを堪能したあと、会員中心のメンバーで構成された合唱隊「i-Chorus」による「乾杯の歌」、「我ら皆兄弟姉妹」が続き、コーラスパートでは大勢の会員が得意の言語で新年の挨拶を紹介し、大いに盛り上がった。

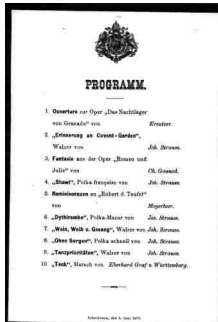
i-Chorus の「エーデルワイス」から始まったガラ・コンサートは、文化人類学者である井本由紀氏のヴァイオリン、三重唱を演じた森美智子氏のソプラノ、英国王立音楽大学首席卒業の若い伊藤悠貴氏のチェロ演奏、最後に、横山和美氏が、使節団が「太平洋楽会」で聴いたと思われる「夜女王」



「夜の女王」を歌う
横山和美さん

をうたい上げ、新年会のクライマックスを迎えた。

最後に、残り時間は少なくなってきたが、同志社大学のグレゴリー・プーブル氏、i-Chorus のイラストを完成したゆうきよしなりさん、山田哲司元事務局長、関西支部の難波康熙幹事を始め、多く招待者や企画運営に携わった幹事の皆さんが紹介され、それぞれスピーチを頂いて、二〇一五新年会はお開きとなった。



使節団が聴いたシェーンブルン宮殿の音楽会(1873.6.8)のプログラム(左)を手にした大久保利泰氏の音頭で乾杯



新年会の総合司会
近藤義彦事務局長



植木園子幹事(左)、多田直彦幹事(上) 吉原重和幹事(下)

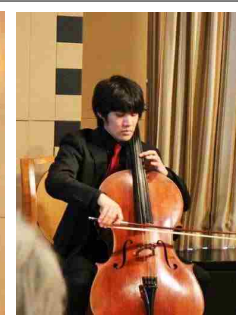


第2部司会
岩崎洋三幹事

← 泉代表とともに新年会を企画・運営した主な幹事



ヴァイオリン
井本由紀さん



チェロ
伊藤悠貴さん

岩倉使節団に関する話題

世界に目を向けると、岩倉使節団に関する埋もれた記録の発見や敬意をもったスピーチに接する機会が訪れることもある。使節団関連の話題を二つ紹介する。

① 山川捨松の母校ヴァッサー大学のホームページ

輝かしい活躍を果たした女性卒業生にスポットライトを当てた特集記事が掲載されていて、岩倉使節団に同行した女子留学生の一人、山川捨松(後の大山巖公爵夫人)が掲載されている。以下は、その一部である。(古俣美樹訳)

『一八八二年卒の中でも輝かしい成績を収めた学生であった山川捨松は、大学学位を初めて取得した日本人女性でもありました。捨松は一八七〇年に女性教育の一環として、また、日本と西洋の架け橋となるため岩倉使節団の随行者としてアメリカに来ました。これは、一八五〇年代にペリーの働きかけによって日本の鎖国が終焉を迎えたことで、一当時の文部大臣・森有礼が西洋の思想や教育を学ぶための一大使節団と女子留学生の派遣の必要性を主張したことでも実現した渡米でした。『原文ママ』一当時の上流階級女性の教育は、良妻賢母と

なるべく、読み書きと家事に必要な程度の算術、儒教の教えだけでした。(中略)

一八七一年にアメリカに到着した五人の女子留学生のうち、年長の二名はホームシックですぐに帰国。山川捨松、永井繁、津田梅の三人だけが残り残りました。捨松は会衆派のレナード・ベーコン牧師宅に、繁は「Cアポット氏宅に寄宿しました。捨松が後にキリスト教徒になったのは、ベーコン牧師の影響が大きいと思われます。捨松は通常科大学生として、繁は音楽学科生として一八七八年に揃ってヴァッサーに入学しました。二人は渡米時から、在学時代、そして日本帰国後の長きにわたって交友関係を持ち続けました。

捨松が在学時の学生たちの中で最も人気が高く、活躍していた学生の一人が捨松本人でした。その美しさと聡明さは評判となるほどで、同年度の学生の憧れと敬愛の対象でした。二年生の時には、学生会の学年会長を務めたほです。また、並外れた知性の持ち主だけが入部を許されていたシェイクスピア・クラブのメンバーになったほか、演劇部の部長も務めました。卒業時には学年三位の成績を収め、数名しか選ばれない選抜生徒の一人として卒業論文

「英国の対日外交政策『原文ママ』」を一八八二年の卒業式で発表しました。

捨松がアメリカと日本に対してどのような気持ちを抱いていたかは定かではありません。学友たちによると、悲しそうな様子は見られなかったものの、距離を置いているように感じられたとのことです。・・・(略)・・・

② 来日したメルケル独首相の講演

三月、来日中のメルケル首相が講演会で、岩倉使節団に触れた。以下に、朝日新聞デジタルより、該当箇所の抜粋を掲載する。

〔前略〕

百四十二年前の今日、一八七三年三月九日、岩倉使節団がベルリンに到着しました。岩倉具視が特命全権大使として率いる使節団がヨーロッパ諸国を訪れ、政治、経済、社会など様々な分野で知見を深める旅行をしたのです。岩倉使節団は、私が考えるに、日本の世界に向けて開かれた姿勢、そして日本の知識欲を代表するものだと思います。そしてこの伝統は、この国において今でも変わらず守られています。(中略)

日本の学生、研究者をドイツで心から歓迎したいと思えます。一八七三年に岩倉使節

団がドイツに来た時と同様、皆さんを歓迎したいと思えます。両国は当時のように互いに、そして世界に対して、好奇心を持ち続けたいと思いません。本日は皆さんにお話しできただけでなく、今から意見交換ができることを喜ばしく思います。お招きに心から感謝します。』

☆新会員自己紹介☆

新たに会員となった方の自己紹介です。

吉田博

二年前、長年の会社員生活を終えて間もない頃、「夜明け前」を読み直してみました。若い頃読んだ時と違って、主人公青山半蔵の苦悩がより深く理解できました。幕末から明治維新にかけて、多くの日本人が苦悩し、試行錯誤しながら明治国家を作り上げてきたわけですが、私の理解は極めて表面的です。日本の近代史を自分なりに掘り下げてみたいと思っています。

三須隆弥

一九四五年生まれで、今年七十になります。私が生まれる数か月前まで、日本はアメリカと大戦争をやっていたそうです。なぜ日本は、対米戦争に突入したのかという疑問から、戦前の歴史に興味を持ちました。そして今、安倍総理の言動を非常に危険だと感じ、戦後の歴史を勉強しな

ればと思っています。

もう一つ、私の曾祖父(富田命保)は、岩倉使節団に参加しているのですが、彼について調べてみたいと思っています。

小泉勝海

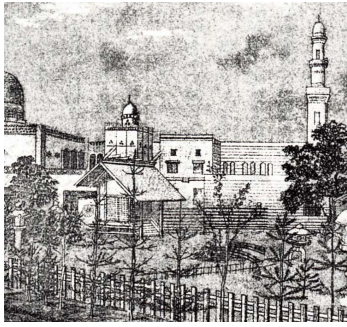
世界は多くの地政学的リスクに覆われて混迷を深めています。しかし、世界の先進国では静かにインターネットの革新的進展で産業界に革命(第四次産業革命)が起きていると言われています。これらの地政学的リスクと第四次産業革命(Internet of Things)が日本を脅かそうとしています。これらの課題にどう対応するか、政治、経済、社会すべての分野に問われています。最近、来日したドイツのメルケル首相は講演の中で「岩倉使節団」の世界に向けた学ぶ姿勢を高く評価していました。岩倉使節団が明治維新の難題にどう対応するかを学んだように、平成の難題にどう対応するか、我々に問われていると思います。

会員の皆様との話し合いを楽しみにしています。

〔お詫び〕

第七十五号掲載の自己紹介を一部訂正いたします。

(正) 小田京子
(誤) 大田京子



万博会場に建てられた日本建築とエジプト建築(『実記』)

実記を読む会報告

担当幹事 小坂田 國雄

Tel&Fax 044-987-1531

osakadakunio5256@jcom.home.ne.jp



■第百八十八回

十二月十一日開催、十六名参加(内女性七名)。

今回は、小坂田幹事の肝いりにより、フレンチレストラン「ラ・ロシエル南青山」で行われ

た。パリの露地に迷い込んだような一画、かの有名な坂井宏行シェフの潇洒な店である。このところ十二月は忘年会を兼ねることが恒例となり、「実記を読む」ことはオードブル程度にして、楽しい酒宴・歓談のひとときが主となった。

朗読は、久米の名語録として独の部からは銅像の分捕り合戦に関して「勝者ハ之ヲ誇耀シ、敗レル者ハ憤恨シ、一ノ銅像、互ニ奪ヒ互ニ復セント、怨恨ノ種ヲウエテ・・・」他を、露の部から

は「世界ノ真景ヲ諒知シ、的実ニ深察スヘシ」他を紹介した。(泉三郎)

■第百八十九回

一月八日開催、参加者七名、第五編 卷88・卷89 『ウイーン万博』

第五編(五冊目)は、欧州総論の『政俗』(列国の大小、民族、言語、信教、政治、風俗)、『地理・運輸』、『気候・農業』、『工業』、『商業』を置いて、使節団回覧中に得た欧州情勢の知見を改めて総括している。

その最初に『ウイーン万博』がある。久米は「幸ニ奥国ニ万国博覧会ヲ開クニ逢ヒ、其場ニ觀テ、昨日ノ目撃ヲ再檢シ、未見ノ諸工産ヲ実閱シタルハ、此紀行ヲ結フニ、大ニ力ヲ得タリ」と述べ、回覧中に各国で観た出品に出遭うと「曩日各国デー見シタルバ、故人ニ逢フタル心地セリ」と再見の感慨を述べ、博覧会を、よき回覧の総括の機会と捉えているので、久米の説明には特段に熱が入る。

ウイーン万博は、オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ一世の治世二十五周年を記念して開催された。使節団日本出發前の明治四年に日本にも招聘があり、佐賀出身の久米邦武の先輩である佐野常民伊

奥両国弁理公使が万博副総裁として百名近い派遣メンバー

を統率・準備に当たってきたもので、日本の出品物、日本庭園、扇子や小物の販売では大人気であったので、久米も感慨深いものがあるはずだが、一切私事は語らないのが久米の流儀だ。一八七三ウイーン万博は明治政府の初めての参加だが、実は一八六七年パリ万博には徳川昭武使節団を送り、幕府、薩摩藩、佐賀藩が出品して、実質最初の出展がなされており、一八六二年のロンドン万博でも、駐日英公使オールコックの個人蒐集日本品九百点を出品の上、竹内下野守保徳使節団が開会式に紋付羽織・袴姿で臨席し注目を集めている。この時の使節団には福澤諭吉、松木弘安、福地源一郎ら八十三名が参加しており、ジャポニズムの発祥はこの時に始まる。

万博の起源はフランスにあり、一七九八年のパリ産業博覧会を嚆矢とし、欧州に拡散し、正式には一八五一年のロンドン万博が最初とされる。日本では、佐野常民が帰国後の報告書で、東京博覧会創設を建言して、大久保利通が取り上げて、一八七七年(明治十年)第一回上野内国勸業博覧会が開催され、以降定期的に上野や全国各地で開催されるようになる。だが、京都では明治四年から、東京遷都後

の京都の経済の衰退を防ごうと昭和三年まで、毎年開催されてきた。その後、博覧会は日本全国で、各種の博覧会が開催されてきたことを、芳野さんが五十枚以上の博覧会ポスターを持参されて説明された。

実は、博覧会は産業革命と共にあり、『商品』の広告ディスプレイ装置として消費社会の発展と共に展開され、やがて『帝国』主義のプロパガンダとして利用され、さらには『見世物』としての大衆娯楽として、オリンピック、見本市、美術館、動植物園、博物館、百貨店、テーマパークへと展開されてきた。フランスに始まるサンシモン主義が原点とすると、新しい産業資本主義イデオロギー推進装置でもあったので、万博が新鮮味を失った現代は、資本主義の終焉を迎えているとの見方も可能だろうか。

■第百九十回

(小野 博正)

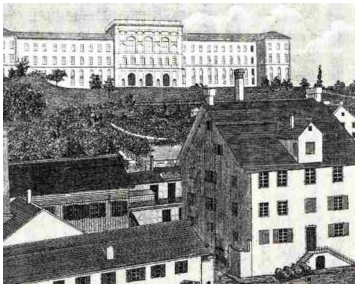
二月十二日開催、参加者十六名。88、89、90章、スイス

一八九一年の建国以来七百年、スイスは世界でも「我が道を行く」ユニークな国として注目されてきたようだ。使節団も「教育はこの国を最も称す」「財産を平均し貧乏の戸少なし」「國中協和し他国の人に懇切」「文武兼ね秀で

る」と絶賛している。この国固有の強みは、その独自の考え、行動によって形成されてきたといえる。列記すると、一、共同体意識のゲマインデ(市町村)からカントン(州)そして連邦へのボトムアップ 二、自主独立の強い意志、現実対応力、時には領土拡大をも拒むバランス感覚 三、直接民主主義の精神と地に着いた政体(職業政治家は皆無、年収二百万円余の兼業議員、七人の閣僚と互選による任期一年の大統領) 四、中立政策(非加盟、国連にもようやく十年前に中立を条件に加盟) 五、独自の国防(職業軍人ミニマム、四千人のみ、民兵組織、二日で六十万人動員) 六、国際主義(国連機関多数、赤十字、I O C など、就労者交流七、強固な経済力(精密工業など、ブランド力、銀行、世界一強い通貨)、、

次に使節団のスイス観察を機に、現代世界の状況を、A、アメリカ、中国(大国主義) B、ドイツ、フランス、イギリス(往年の大国主義) C、スイス、デンマーク(小国主義、中立主義)、そしてその間にあって揺れ動く日本という構図を様々な指標の比較で考えてみた。面積、人口はもとより、GNP、軍事力、教育費、社会保障費、

力、教育費、社会保障費、



チューリッヒの大学
(『実記』)

貧困率、失業率、労働時間、法人税率、相続税率、自殺率、戦争の犠牲者数など。たまたまピケティが来日し、久しぶりに社会格差に関心が戻ってきている今日、深く広く考えてみる好機であろう。データは、スイス、デンマークの圧倒的総合力と米中のさまざまな欠陥を示している。はたして日本の方向は如何！

さて、実記のベルントとジュネーブで「バンベルト氏」として登場するエメ・アンペールは、幕末一八六三年に条約締結の命を帯び来日し、十八ヶ月日本に滞在したスイス使節団長である。彼の残した膨大な『幕末日本絵図』は、まさにスイス版の『回覧実記』ともいべき見事な観察記述とたくさんの図版で、幕末日本の風俗世相を如実に語ってくれている。私たち十六名の参加者も幕末にさかのぼり、アンペールの目で江戸の街を楽しんだ。

生麦事件でのリチャードソン殺害に対する賠償金支払請求を正式に当事者である島津藩に突きつけるため薩摩の役人と船上で交渉したが進展しないまま突如薩摩の陸上の砲台から砲声が聞こえ、全砲台からの攻撃に応じて交戦が開始された。

Sir Ernest Satow,
A Diplomat in Japan 輪読会
担当幹事 岩崎洋三
Tel & Fax 03-3488-0532
y-iwasaki@isr.or.jp



第八回
十二月十七日開催。
H. Bombardment of Kagoshima
イギリスのニール代理公使以下公使館全員が兵士と共に、七隻の艦隊編成で鹿児島湾に入り薩摩藩と海上で対峙した。

イギリス側では、旗艦ユーリアラス号に球形弾が命中して艦長以下九名の水兵が戦死する被害を受けた。そのうち、鹿児島町でもイギリス側の砲弾による大規模火災により、かなりの範囲で被害が出た。この結果、双方とも被害を受け、停戦してイギリス艦隊は横浜に帰還した。

第九回
一月二十一日開催、出席者十名。IX Shimonoseki; Preliminary Measure X Shimonoseki - Naval Operations
輪読した両章は一八六四年(元治元年)血気盛んな二十歳のサトウが英国を主力とする四ヶ国連合軍(英・仏・蘭・米)が長州藩と戦った下関戦争従軍記。戦争は前年五月十日、長州藩が下関を通過するアメリカ商船を砲撃、六月一日米軍艦の報復、同五日仏艦隊陸戦隊が上陸し砲台破壊した事件が発端。因に五月十日は將軍家茂が攘夷実行を孝明天皇に約束した日でもあった。

X章は英駐日公使オールコックが約一年の賜暇後、帰任したことから下関事件にふれ、さらに英公使が連合国による下関戦争に備えて四ヶ国の提携に尽力し意思統一に成功したこと、戦争準備のため陽暦七月英艦の一ヶ月におよぶ下関偵察行を記す。この間、前年に藩から英国に派遣された伊藤博文、井上馨が下関事件、薩英戦争のことを知り、藩に戦争回避を進言するため急遽帰国し、オールコックと面会、横浜開港を約した条約履行のため藩主への文書を託され偵察行の英艦に同乗が許され藩に赴く、藩主の理解は得られたものの結果は不成功であった。このことが奇貨となりサトウと伊藤との意志疎通の道が開かれ両者と日英間に後日大きな影響を与えたと思われる。また戦争準備を主導の英公使が本国外相の意向に反した戦争行為に及び、後に罷免されたことにも言及。

X章はサトウが英艦隊提督の通訳として陽暦八月末神奈川を出航し、九月二日姫島上陸、九月五日連合艦隊攻撃開始、翌六日約二千人の陸戦隊(うち英軍千四百人)が上陸し陸上戦展開、すべての砲台が破壊され、大砲等六十門接収。サトウは弾薬飛びかう中、長州藩の死者、英軍将校の重傷も目撃した。戦争の顛末は、萩原延寿『薩英戦争遠い崖二』、保谷徹『下関戦争と伊藤博文』(歴史読本二〇一五年三月号)が参考になる。(大森 東亜)

この章では下関戦争の講和締結の様子が記されている。一八六四年九月五、六両日の下関戦争は、英・米・仏・蘭四国連合艦隊の勝利で終わり第一回の講和交渉会議は、九月八日連合艦隊旗艦上で行われ、長州側は、宍戸刑馬(養子となった高杉晋作であるが、サトウは、高杉の名は知らないようである)以下3名を使節として送ったが、この使節団来艦を予告するため来艦したのはサトウ旧知の、英国から帰国していた伊藤博文であった。その後も、逐次、交渉はおこなわれ、連合艦隊側は、今回の軍事行動の目的である「砲台の破壊」「海峡通航の安全、食料品などの購入などに關し藩主との間の充分な了解の成立」を達成、幕府に対し長州が支払うべき賠償金につき幕府が支払うことを要求、後日これを受け取っている。この間、提督達による砲台設置場所などの視察の随行等で、サトウは、何度か上陸し、戦勝の威光を感じたこと、更に長州人は、常に丁寧親切で極めて友好的であり町民との間の悶着は皆無であったことなどを記述している。(永島 脩一郎)

第十回
二月十八日開催、XI Shimonoseki; Peace Concluded with Choshu
この章では下関戦争の講和締結の様子が記されている。一八六四年九月五、六両日の下関戦争は、英・米・仏・蘭四国連合艦隊の勝利で終わり第一回の講和交渉会議は、九月八日連合艦隊旗艦上で行われ、長州側は、宍戸刑馬(養子となった高杉晋作であるが、サトウは、高杉の名は知らないようである)以下3名を使節として送ったが、この使節団来艦を予告するため来艦したのはサトウ旧知の、英国から帰国していた伊藤博文であった。その後も、逐次、交渉はおこなわれ、連合艦隊側は、今回の軍事行動の目的である「砲台の破壊」「海峡通航の安全、食料品などの購入などに關し藩主との間の充分な了解の成立」を達成、幕府に対し長州が支払うべき賠償金につき幕府が支払うことを要求、後日これを受け取っている。この間、提督達による砲台設置場所などの視察の随行等で、サトウは、何度か上陸し、戦勝の威光を感じたこと、更に長州人は、常に丁寧親切で極めて友好的であり町民との間の悶着は皆無であったことなどを記述している。(永島 脩一郎)



歴史部会報

担当幹事 小野 博正

mi040031-9697@tba.t-com.ne.jp

■思想から見た明治維新―吉田松陰を中心に―

十二月十六日開催、参加者二十五名。二〇一五年NHKで大河ドラマ『花燃ゆ』が始まった。吉田松陰の妹の杉文を

主人公に、幕末の長州藩の志士の群像が語られると思われ。幕末の長州藩のハチャメチャ振りの理解なしに幕末と明治維新は分らない。そこで、吉田松陰を取り上げて、明治維新を可能にした思想的背景は何かを考えてみた。

幕末の思想をリードした思想家には、松陰以外にも佐久間象山、横井小楠、橋本左内、会沢正志斎らが思い浮かぶ。その誰も倒幕の思想はなかった。公武合体、尊皇開国、富国強兵で共通する。ではなぜイギリス公使館焼き討ち、禁門の変、下関で外国船砲撃した長州の攘夷過激派が倒幕をリードすることになったのか。

初、藩と幕府を諫めることしか考えていなかったが、江戸中期の思想家・山県大武の『群下の放伐』(鎌倉幕府以来の武士による幕府体制は、民を苦しめてきた。文人による王道政治に戻すべきであり、一君万民体制のためには、一揆や革命も許される)との思想を唾棄の僧・黙霖が松陰に一年掛けて説き伏せた。また前出の幕末の思想家や西郷隆盛には、いずれも昌平黌教授の佐藤一斎の影響がみられる。昌平黌は幕府の朱子学の学問でありながら、一斎は陽明学を重んじ講じた。知行合一である。知識は行動に起こしてこそ意味がある。

吉田松陰は、結局、個人としてはほとんど何もできずに安政の大獄で刑死したが、遺書『留魂録』にその無念さを残し、「私」より「公」を重んじる至誠と二十一回猛士の生き方を見せて死ぬことで、松下村塾の弟子たちに強烈なインパクトを与えた。まず禁門の変で、「ここで死んで見せねば」と言って久坂玄瑞らが死んだ。それに発奮して高杉晋作らの奇兵隊が生まれ、倒幕への道を邁進することに繋がった。

二十九歳で死んだ松陰の読書遍歴を見れば、アヘン戦争や、諸外国の民主・共和の情報本が幕末の日本に溢れていたことが分かる。鎖国体制というが、実は日本の近代はすでに江戸時代中期、將軍吉宗の時代に始まっており、倒されたはずの最後の將軍・徳川慶喜でさえ、時代の潮流を讀んで倒幕の確信犯だったとの私見を述べて締めくくった。(小野博正)

て開国、近代化が不可避だったことが分かる。鎖国体制というが、実は日本の近代はすでに江戸時代中期、將軍吉宗の時代に始まっており、倒されたはずの最後の將軍・徳川慶喜でさえ、時代の潮流を讀んで倒幕の確信犯だったとの私見を述べて締めくくった。(小野博正)

進者は未来を求めて得られず、その結果生じた不満があるとされている。即ち『丁丑公論』で言いたかったのは、「不平士族に対する処方箋」として、「治権」を地方に渡す事、「地方分権」の主張であった。

福澤諭吉の『瘠我慢の説』は、勝海舟と榎本武揚に対して彼等が武士道精神を放棄した事を非難している。特に勝海舟に対して手厳しい。勝が西郷との話し合いで江戸城無血開城を実現させた事に対して、「戦わずして城を明け渡したのは武士道精神に反する」と福澤は主張する。しかもその後「それまでは敵であった明治新政府に使えらるゝは何事か？」と厳しく批判する。榎本は最後まで官軍と戦って最後は函館で降参するが、その後はやはり明治新政府に仕えている事を批判する。

筆者は榎本に対する福澤の批判は尤もだと思いが、勝に対する批判に対しては異論を唱える者である。「幕府は戦っても負ける」と徳川慶喜が判断し、慶喜は上野に蟄居する。最高司令官が判断したから部下は従うのが当然である。しかも江戸が廃墟になるのを防いだのである。明治三十二年に出版された新渡戸稲造著『武士道』第十三章 刀・

武士の魂 では、新渡戸は勝海舟を武士の誉れと称賛している。又、勝海舟は、その後形式的に明治政府に仕えたが、それは幕府が倒れた後、「徳川銀行」を設立、徳川一門及び旧幕臣の生活の面倒を見るのに必須の条件であった。(大久保啓次郎)



グローバルジャパン研究会報告
担当幹事 塚本 弘
hiroshi.tsuka@i.softbank.jp

■岸信介と安倍信三―二〇一三年のファシズム論
十二月十三日開催。
半澤氏による報告は「安倍政権の理念と現実の背景説明」。配布イは、保阪正康責任編集『昭和史講座』(二〇一三年一月)に報告者が書いたもので、当日は背景説明が主となった。要点は次の三つである。
一、保阪正康氏の昭和史研究

氏は「米欧亜回覧の会」会員でもあり講演に何度も招聘した。インタビューと資料の読み込みを重視する実証的な研究者で、昭和史のようにジャーナリズムとアカデミズムの垣根が低い分野で特色を發揮している。イデオロギー先行派には批判的だが、時勢の変化は激しく速い。氏はいつの間にか半藤一利氏と並んで昭和史研究の左岸に立っている。

二、世界経済の概観―二十世紀から二十一世紀へ―一九二九年恐慌が起点となる。恐慌への対応は「ニューディール」(米・英)、「ファシズム」(日・独・伊)、「社会主義」(ソ連)と大別される。ニューディール派がファシズムに勝利し、戦後はケインズ主義的福祉国家の時代となった。八十年代に台頭した新自由主義は、多国籍化した大企業がケインズ政策の過重な負担を解き、世界市場で活動するための環境を求める主張である。政策は、市場開放・規制緩和・金融経済化となる。

三、概観を日本に当てはめると戦時経済は、明治以来の「開発独裁」が変種した「総力戦体制」であった。戦後は軽武装下で、自民党主導の利益配分システムを構築し高度成長を達成した。この体制は

七〇年代で終わり、新自由主義が中曽根行革から始まったが、高度成長の成功体験が対応を遅らせた。安倍政権は新自由主義と対米従属の二本足で「日本を取り戻す」ことを狙うが、対米従属を対米自立の「ナショナルリズム」と錯覚する矛盾を孕んでいる。

(文責) 畠山 朔男

■仏教説話入門―燃燈仏授記物語に見る仏教思想の展開

二月十四日開催。

仏教は、インド・アフリヤン語族が紀元前六〜五世紀にガンジス河中流域に進出し、牧畜生活から農耕を開始して定住し、十六小王国が繁栄した時代に、現在のネパールとインドの国境地帯にあったシャキーヤ(釈迦)族のカピラヴァストウ国の王子が出家し、ブッダガヤーの菩提樹の下で悟りを開いた(成道)ことよって始まった宗教である。

しかし、そのブッダの死後、教えの中心である経典は次第に膨大なものになっていった。特に大乘仏教が紀元前後ごろ(起源については定説はない)起こってくると、大乘独自の経典も数多く作られ、一般の仏教徒にとつては、仏教の全体像をぼんやりと掴むことすら難しくなっている。日本には六世紀前半に仏教が公式に伝えられたが、

それは最初から大乘仏教で、上座仏教(いわゆる小乗仏教)が本当に知られたのは明治になり、西洋のインド研究、仏教研究の成果が知られるようになってからである。

今回は、いわゆる小乗仏教(南方上座仏教)から大乘仏教への橋渡し・転回点となった、ディーパンカラ・ブッダ(燃燈仏)の物語を取り上げた。上座仏教の伝える話は、主人公のスメーダというバラモン青年がヒマラヤ山で修行をして神通力を得るが、ある日、ランマという都でディーパンカラ・ブッダが現れたと聞き、ブッダを迎える道の修理を引き受ける。しかし、神通力を使わずに自力でぬかるんだ道の修理をしているうちにブッダが四十万人の阿羅漢たちを従えて近づいて来たため、泥地の上に自分の衣と髪を敷いて、ブッダが足を汚さないようにと念じる。ブッダはそこへ来られて、彼に「将来、釈迦仏になるだろう」という予言を授けた(授記)という話である。

ところが、インドの北方に伝わった伝承の中では、主人公は燃燈仏が現れたと聞いて供養の蓮の花を五百金(銀)で買うが、花を売った女性に代わりに「あなたがブッダになるまで世々あなたの妻になる」ことを承諾させる。この

女性がブッダの出家前の妻のゴピー妃であったとされる。そして衣と髪を敷いて泥地をブッダに踏ませないというエピソードも出てくる。日本の学者たちは、この花の供養と髪を敷いた供養(布施供養)の両方があるのが物語の本来の形であり、上座部の伝承は花の供養を欠いているので、片手落ちだとする。花の供養のモチーフは釈迦が出家前に結婚していたことを説明する不可欠な要素であり、釈迦の在家時代を問題と考えない上座仏教では不要だったので語られていない。仏教では次第に一生不犯が理想とされるようになり、釈迦の出家前の結婚の「事実」の説明が必要になったというところが、この物語を精査することによってわかる。

日本の仏教では出家者であるはずの僧侶が肉食妻帯するのが当たり前になつていくが、それには日本仏教独自の歴史がある。しかし寺院の世襲が当然のように行われ、葬式などで多くの「お布施」を受け取って贅沢な暮しをするというイメージが定着した日本仏教界には、釈迦の教えを学びなおして襟を正し、仏教が本来果たすべき役割や人々に伝えるべきメッセージを今一度しっかり見直していただきたい。(松村 淳子)

関西支部報告

担当幹事 難波 康熙



namba@jttk.zaq.ne.jp

■第七十八回
十二月十七日
開催、参加者五
名。第三巻フラ
ンス編。
フランス人とは一体何者か、フランスはどのようなにして歴史に出現したのかといったことをまず見てみることにした。フランスと

久米は『実記』の中で、フランス国民を構成しているのはフランス人種であり、侵入して来たフランス人というゲルマン系民族が主体であるように記述している。しかし、現代のフランス人にはケルト系のガリア人を自分たちの祖先として意識し、ゴルワ(Gaulois)つまりガリア人として後から来た諸民族に対して呼び分ける人も多い。

どちらにしても、人種の側面から究明して云々することはあまり意味がないと考えられる。日本人を縄文系、弥生系との視点で捉えようとするのと同様に。(難波 康熙)

特定非営利活動法人

「米欧亜回覧の会」ご案内

- 趣旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この歴史的な大いなる旅と「実記」は、まさに「温故知新」の宝庫といえましょう。
この素材を媒体に歴史を学び、現代の直面する諸問題についても自由に語り合う会です。
- 会員** 趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例会** 年に4回、全体例会があります。
- 部会** テーマ別に読む会、歴史部会、グローバルジャパン研究会等があり、映像サロン・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。
- 機関紙** 年に4回、機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 役員** 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。
- 会費** 年会費6,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、仮入会希望者、学生には地方会員、準会員、学生会員の制度もあります。
- 事務局** 「米欧亜回覧の会」事務局担当 古俣美樹
〒190-0001
東京都立川市若葉町 1-24-30-7111
E-mail:info@iwakura-mission.gr.jp
TEL/FAX 042-534-9295
- 入会申込**
入会申込書はホームページと事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。
なお年会費などのお支払いは下記のゆうちょ銀行口座への払込(振込)をご利用ください。
00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

ホームページ

メッセージ・活動と内容・岩倉使節団・米欧回覧実記・会員のページ 等
また、書籍・DVD案内もあります

<http://www.iwakura-mission.jp>

*お知らせ欄も時々チェックしてください



<催し案内>

2015年4月～6月の予定です

☆4月全体例会(年次総会)

日時: 4月26日(日) 13:30～16:00 (開場13時)
テーマ: 年次総会と記念事業の企画
場所: 学術総合センター会議室(千代田区一ツ橋)
会費: 2,000円

☆実記を読む会

日程: 5月14日(木) 小坂田氏「第91、92、93巻」
6月11日(木) 山崎氏「第94巻」
7月9日(木) 堀江氏「第95、96巻」
時間: 14:00～
場所: 国際文化会館401号室
会費: 1,000円

☆Sir Ernest Satow, A Diplomat in Japan 輪読会

日程: 5月20日(水) 14:00～ Ch. 14 市川氏担当
6月17日(水) 14:00～ Ch. 15 斉藤氏担当
7月15日(水) 14:00～ Ch. 16 担当募集中
場所: 日比谷図書文化館セミナールーム
会費: 1,000円

☆歴史部会

日程: 5月18日(月) 13:30～16:30
テーマ: 明治維新をめぐる豪商たち(西井易穂氏)
場所: 国際文化会館404号室
会費: 1,000円

☆グローバルジャパン研究会

日程: 5月9日(土) 13:30～16:30
テーマ: 科学とメルヘン—宇宙開発からナノテクノロジーまで・最先端科学を描く童画イラスト(ゆうき・よしなり氏)
場所: 国際文化会館401号室
会費: 1,000円

☆i-café-lecture @新浦安

日程: 4月19日(日) 14:00～16:30
テーマ: 映像でたどる岩倉使節団 世界1周632日の旅 1871～1873 (講師: 泉三郎氏)
場所: 浦安市民プラザWave101中ホール
会費: 500円(終了後懇談会 会費1,500円)

編集後記

◇メルケル独首相が来日した三月九日が使節団がベルリンに到着した日にあたること、来日講演の中で触れ、国際関係に対する見識と日本への敬意を感じます。(二頁掲載)一方、安倍首相の一月の施政方針演説は、多くの先人の言葉が引用され、吉田松陰、岡倉天心、吉田茂とともに、「日本を取り戻す」という文脈の中で岩倉具視の言葉も登場します。日本人にだけ響いたのででしょうか。

◇使節団の同行留学生の山川捨松が卒業したヴァーツァー大学のホームページに、輝かしい活躍を果たした女性留学生の一人として紹介されていることが、リンデンバウム(五月i-café-music)のオーナーから当会に伝わり、抜粋を二頁に掲載しました。また、二〇一五新年会では、大久保利泰氏が、使節団がシェーンブルン宮殿で皇帝・皇后に謁見した際の音楽会のプログラムを持参されました。『実記』にこの音楽会の記述はありません。

◇多田幹事と古俣幹事が、岩倉使節団と当会のFacebookページを立ち上げました。会報やホームページでは困難な、スピード感のある情報発信を試みています。是非、ご覧ください。